

宋元時代總說

宋元時代といふ區分

題して宋元時代といふ。宋といひ元といふも、それが時の流れと事象の發展を遮斷して、新なる時・處・人を創造したるものに非る以上、五代に唐に隋に、更にまたその昔に溯らずして究明し得る史實は存しない筈である。しかしながらこれ等兩朝時代に認められる主要なる史實を主題として、これが生成發展の跡を論究するとすれば、縱令その以前に立返つて攷究を施すところ少からぬにしても、必ずしもこれを兩朝時代の歴史と稱するを妨げない。この一篇の論述が屢宋元時代以外に及びながら、なほ冠するに兩代を以てするのは、かゝる見解に基くものに外ならぬ。

宋元兩時代を一つに併せたのは、一に編纂の便宜に出たものであらうと思ふ。自分は兩時代の文化現象を一纏にして論述することに、格別の意義を附し得るとは考へない。たゞ北方において、遼から金にと漸次發展し來つた北人の勢力が、元に至つてその極點に達したのに對して、南方において常にこれと對立し交渉を有したのが宋朝であつた關係からすれば、この組合せ方においても必ずしも理無しとはしない。しかもこれが爲に兩代の文化現象の上に、特に一括せらるべき體系が存するものと思ふべきでないことは斷つて置かねばならぬ。